九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Towards a More Honest World: An Integrated Empirical Study to Elucidate the Effects of Environmental Factors on Dishonest Behaviors

劉, 歓緒

https://hdl.handle.net/2324/7329399

出版情報：Kyushu University, 2024, 博士（心理学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

氏　　名	劉歓緒
論　文　名	Towards a More Honest World: An Integrated Empirical Study to Elucidate the Effects of Environmental Factors on Dishonest Behaviors
論文調査委員	主　査　九州大学基幹教育院　准教授　山田 祐樹 副　査　九州大学大学院人間環境学研究院　教授　中村 知靖 副　査　九州大学大学院人間環境学研究院　准教授　山本 健太郎 副　査　関西大学　准教授　佐々木 恭志郎

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は，不正行為が生起するメカニズムが未だ完全には解明されておらず，実生活において多発する不正行為に対する効果的な対策が不足している現状を鑑みて，これまでほとんど取り扱われてこなかった種々の環境要因に焦点を当てて統合的な実験心理学的研究を行ったものである。本論文は，複数の環境要因をモデル化し不正行為に影響を与える可能性のある要因を探索し，行動実験を通じてこれらの要因の効果を検証し，その内的メカニズムの一端を明らかにした。具体的には，まず心理ネットワークとベイジアンネットワークを用いて環境要因と不正行為の関係をモデル化し，環境要因の特性が不正行為と誠実行動の発生において異なることを示し，特に環境快適性と個人的知覚に関連する要因の効果をさらに検討する価値があることを明らかにした。次に，明るさに焦点を当て，それが不正行為に及ぼす影響を検証し，そのメカニズムを解明するための一連の実験を行った。結果，暗い環境は不正行為を促進することが報告され，特に暗さによって視認性が低下したことによる課題結果の曖昧さが影響を与える可能性が示された。また，白黒メタファーが不正行為に与える影響についても考察し，メタファーの提示方法や曝露の期間，外部報酬システムなどが結果に影響を与えた可能性が示唆され，さらなる研究の必要性が指摘された。さらに，参加者が受け取る報酬の要因を操作し，タイムプレッシャーが不正行為に与える影響について矛盾していた先行研究の結論の統合を試みた。タイムプレッシャーと報酬が相互作用する仮説は支持されなかったものの，報酬の効果自体は確認された。最後に，以上の実証的な結果に基づき，期待効用理論，自己概念維持理論，認知的不協和理論と道徳的離脱理論など不正行為に関する理論を再検討し，拡張させた。本論文は，理論的には既存の知識の枠組みを補完する貢献を果たすとともに，実生活における不正行為を減少させるための有効なアプローチを提案した。

以上のように本論文は，多くの環境要因が不正行為に影響する可能性があるにもかかわらず，先行研究が人格や社会的要因の検証に偏重していた現状に対し，新たな角度から不正行為の生起プロセスを捉えた点で価値ある研究である。環境要因に着目し，それが不正行為に与える影響とそのメカニズムを実証的に検証した本研究は，環境心理学の視点で不正行為を統制する基礎を築き，将来的に環境的な要因を用いて不正行為を制御する可能性を示唆している。これにより，基礎的知見に多大なインパクトを与える上で，司法，経済，教育など多様な実社会場面での応用も期待でき，その社会的意義は非常に大きい。よって，本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。